

■ 3-JP 大腸 LECS の有用性—欧米の報告との比較を含めて
Feasibility of LECS procedure for colorectal tumors - including comparison with the reports of Europe and America

代表演者：為我井芳郎先生（がん研有明病院内視鏡診療部）

Speaker: Yoshiro Tamegai, M.D., Endoscopic Division, Cancer Institute Hospital, Japanese Foundation for Cancer Research, Tokyo, Japan

共同演者：[がん研有明病院内視鏡診療部] 千野晶子、斉藤彰一、藤崎順子

[がん研有明病院消化器外科] 福長洋介、鈴木紳祐、小西毅、秋吉高志、上野雅資、比企直樹

【目的】内視鏡治療の限界を克服する大腸 LECS の有用性について報告する。

【対象および方法】1) LECS 施行例 17 例（男 10 例、女 7 例、平均 66.5 歳）17 病変の治療成績。2) 欧米における CELS, CLER 等の合同手術手技および EFTR の成績との比較、を行った。

【結果】1) LECS の適応は、①治療後の遺残再発病変で、広範で強固な線維化が示唆される Tis 癌、中 - 高度異型腺腫（Vienna 分類、Category 3, 4）、②固有筋層を含む粘膜下腫瘍、③憩室や虫垂内に進展した Tis 癌、中 - 高度異型腺腫、とした。3) LECS 17 例の部位は C:7 例、A:4 例、T:4 例、D:1 例、Ra:1 例で 6 例は間膜側に局在した。形態は LST-NG(F)9 例、LST-G(Mix)3 例、Is5 例、病理診断は Tis 癌 6 例、腺腫 9 例、SMT2 例（GIST1 例、Schwannoma1 例）で、完全一括切除率 17/17(100%)、RO 率 17/17 (100%) と良好であった。適応理由は高度線維化を伴った局所再発 5 例、虫垂内腫瘍進展 6 例、憩室併存 3 例、SMT2 例、内視鏡手技不能 1 例で、平均出血 7.8g/dl(3-20)、平均術時間 183.3 分 (68-332) であった。術後炎症反応は軽微で、腸管蠕動の回復も良好で縫合不全等の偶発症なく平均在院日数 6.4 日 (4-12)、17 例全例で平均 30.8 か月 (3-72) 経過観察され、遺残再発は認めなかった。2) 欧米の報告から合同手術手技：16 編、EFTR: 5 編と比較した。その結果、CLER や CELS では完全一括切除率 (57.9-100%) で、偶発症や LAC・開腹術への移行率 (2.2-42.1%) および再手術率 (2.6-11%) は高かった。EFTR では完全一括切除率 (75-89.5%)、RO 率 (75-80%) と低く、遺残再発率 (5.0-20%) は高率であった。

【結語】大腸 LECS は欧米の合同手術手技や EFTR に比べ安全性と根治性において優れた成績を示した。今後の課題を含めて報告する。